

①抗HIV予防薬服用の受診 フローチャート

平日対応用

抗HIV薬の内服は可及的速やかに（可能であれば2時間以内）

一般医療機関・受傷者の対応

針刺し・切創及び皮膚・粘膜曝露が発生!!

HIV抗体(+)血液

HIV抗体(+)が強く疑われる血液

直ちに曝露部位を大量の流水で十分洗浄する

自施設の医療事故担当者に報告  
自施設の医師は受傷者を診察

**HIV予防薬を服用することが決まったら①②を実施**

①

- ・妊娠の有無を確認
- ・同意書にサイン
- ・依頼書作成

②

苫小牧市立病院へ電話連絡 (0144-33-3131)  
感染制御室 平日 8時45分～17時15分 まで  
来院時間の調整 (保険証・あれば診察券を持参)  
\* 必要書類の3通の原本は受診時に持ってくる

第1回目の服用の適否は受傷者本人が自己決定した上で協力病院を受診する

患者サポートセンター(17時まで)  
FAX 0144-33-4678

**必要書類3通FAX(原本は持参する)**

- ・ご紹介患者様受診予約票
- ・抗HIV薬予防内服決定チャート
- ・抗HIV薬予防内服同意書・依頼書

1階 18番「交通事故・労災受付」で手続き

総合案内で受診手続き

感染制御室

薬剤部へ連絡

①薬剤部②調剤室  
予防内服薬の準備  
薬局窓口で渡す

18番労災窓口と総合案内に連絡  
総合案内は患者が来院したら  
感染制御室へ連絡  
基本伝票(印:印°ネト)・IDカード作成

内科外来に連絡

**\* HIV予防薬を服用するので速やかに対応する**

受傷者来院

感染制御室は書類を確認し、受傷者を内科外来に案内

薬局で薬剤受領  
服用

**第1回目をできるだけ早く服用**  
採血室

採血室  
採血を行う  
・中央処置室事務員はすみやかに「エビネットです」と看護師に伝える  
・看護師はすみやかに採血を終了させる

説明  
1. 予防薬を薬局窓口で受領して内服すること。副作用、内服方法は薬局窓口で相談すること  
2. 中央処置室で採血すること (医師の指示により) 採血結果が出たら再診になること

会計

1階 18番  
「労災受付」で行う

診察医師

- \* 院内処方オーダ入力：最高3日分まで
- 同意書・依頼書・針刺し問診票で確認
- \* 服用が決まったら、1回目の服用を直ちに行う
- <オーダ入力方法>
- 1.検査→針刺しセット【院外】の選択 (血清保存1年)
- 2.HIV抗体検査のみ選択、または、希望にそって他感染症検査を追加して実施
- 3.HIV予防薬内服者はHIV内服セットを追加 (副作用の評価のため、前・2週間前後採血あり)
- \* 予防内服期間、次回受診について説明
- \* 基本的な服用期間は4週間(28日間)**

\* 診察にかかる費用は、自費扱いとし、当院の請求に基づき、事故が発生した医療機関が支払う

HIV予防薬を服用したら感染制御室へ連絡 (予防薬補充のため保健所に連絡する)

苫小牧市立病院